

佐賀県保育幼児教育センターだより

第9号 令和8年3月16日

佐賀県保育幼児教育センター（佐賀県こども未来課） ☎ 0952(25)7616

Fax0952(25)7339

hy-c@pref.saga.lg.jp佐賀県子育て応援キャラクター
さがっぴい

深まる「幼保小連携・接続」の取り組み！

7月に開催された「幼稚園等教育課程佐賀県協議会」では、神崎市と川上こども園の先生方から実践発表がありました。本号では、実践発表の概要と、今もなお深まっている連携・接続の取り組みについてレポートします。

《神崎市》こどもの育ちをつなぐ「架け橋期のカリキュラム」作成の取り組み

《実践発表者》

神崎市教育委員会 指導主事 田中 裕子先生
神崎市立ちよだ保育園 副園長 宮崎 恵美先生
神崎市立千代田中部小学校 1年担任 吉武 実畝先生



《神崎市全体で取り組まれています》

小1ギャップ解消へ

保育園から小学校への移行をスムーズに

※1 神崎市は「架け橋期カリキュラム」に取り組めます！



神崎市は、学校教育課、こども家庭課が協力して幼小連携・接続に取り組んでいらっしやいます。ちよだ保育園、千代田中部小学校をモデル地区として架け橋期のカリキュラムの作成に取り組まれました。

《園児と児童の交流活動：「小学校入学体験」や「オンライン会議」「ビデオレター」「お手紙での交流」》

※2

保 《小学校入学体験実施後の先生たちの声》 小

一つ一つの活動を関連付けてストーリー性のある計画をなされ、園児のわくわく感や安心感を育む工夫がなされました。

- 卒園からほぼ1年後の姿を見ることで、就学に向け幼児期にどのような体験が必要かを感じた。
- 保育園での遊びや行事との繋がりをみることでできた。
- 小学校での育ってほしい姿や教育課程を知ることで園の保育計画に活動を取り入れやすくなる。
- 小学校の先生方との距離感が縮まった。

- 園の先生方と交流したことで視野が広がったように感じる。
- 年長児は園では最年長であり頼られる存在であるという認識が変わってきた。
- 次年度の1年生の様子を従前よりも確実に理解することができたようだ。
- 園での生活の様子を把握できたので、連続性を意識するようになった。

※3

「おてがみがきたよ」《園児から小学校への質問の手紙》



ますます深まる実践

令和7年度は、神崎市内の全ての小学校校区で園と小学校の協働で「架け橋期のカリキュラム」の策定に努められ、5小学校校区で完成しました。

どの園・学校でもカリキュラムが形骸化しないように、先生方の同僚性を高め、自由闊達な話し合いが進められました。こどもの育ちを心から願い、関係者みんなで協力して取り組まれる姿はまさしく「主体性を発揮」されたものでした。

神崎市教育委員会
田中指導主事

2月には第3回神崎市幼保小連絡協議会でサルナートこども園、千代田西部小学校の架け橋期プログラムについてご発表をしていただきました。



第3回神崎市幼保小連絡協議会発表資料より 楽しい園児と児童の交流活動



佐賀県

©2026 Saga Prefecture.

《川上こども園》 こどもたちの学びの芽生えを言語化、可視化し、伝え合う

《実践発表者》

学校法人代和学園認定こども園 川上こども園（佐賀市大和町）
園長 吉田 修先生
主幹 古賀 美奈子先生



園の先生方は、絶えずこどもの行動や心の動きを温かく受け止め、理解しようと努めていらっしゃいます。川上こども園さんは、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿“10の姿”」を活用して言語化、可視化して職員はもとより小学校の先生、保護者の皆さんと日々の成長を伝えられ共有されました。



《園と児童の交流：児童による音読劇（大きなかぶ）の鑑賞 令和6年7月実施》

※4 《1年生と一体となって劇を楽しんだよ》

交流会を実施するに当たって、園児が単なるお客さんにならないように、1年生担任との事前の打ち合わせでお互いの指導のねらいや意図を確認し、共有されました。

大好きなお話の世界を音読劇で見て、演じ手（小学生）、聞き手（園児）が互いの存在を意識しながら、一緒になって言葉の世界を楽しむことができた。

- 繰り返して出てくる「うんとこしょ、どっこいしょ」の掛け声を園児も一緒に。声も次第に大きくなり一体感が生まれた。

- 登場人物のおじいさんからネズミまで、「まだまだかぶは抜けません」の繰り返しの言葉におもしろさを十分に感じていた。

- 事前に子どもたちへ絵本「大きなかぶ」を読んで小学生による音読劇を楽しむに待つ。

- 小学生と一緒に絵本にでてくる言葉をみんなで声にしたり、体を動かしたりしながら劇を楽しむことができるように広いホールで行う。



川上小学校の先生方の声《実践後の振り返り》

《村山輝美校長先生》

園児の皆さんにも、子どもたちが小学生のモデルとして映り、小学校での学びを楽しむにしてくれていれば、小学校への確かな「かけはし」になったことと思います。

《小学校担任の先生》

入学して間もない6月で、友だち関係がまだできていない時期だったからこそ、誰かに見てもらうという意識と「大きなかぶ」の挿絵から配役を自分たちで考えたり班活動を通して仲間意識ができたのでよかった。

《こどもの育ちの言語化、可視化の取り組み 令和7年4～6月実施》

お便りや掲示物などで、遊びや活動の様子を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに言語化され、また写真や図に幼児がつづいた言葉などを書き添えてこどもの生き生きとした育ちの様子を可視化されています。

※5 《お便りを小学校に掲示》



園から、活動の様子を保護者や小学校へ写真等を活用（ドキュメンテーション）してお便りを発行

※6



小学校 校長先生

園のおたよりをいただき、園児の学び姿を小学校で共有することは、大変意義深いものだと思います。小学校の担任にとって、目の前にいる子どもたちが園でどんな遊びや学びをしたのか知ること、授業の工夫につながり、何より子どもたちにかかる言葉が変わってくると思います。園の先生方にも、小学校の姿を知ってもらうことで今の活動が何につながっていくのかが見え、活動の意義を再確認できるのではないのでしょうか。子どもたちにとって連続した学びになるよう、これからも連携を深めていきたいと思います。



園児 保護者

先週まさに、1年生生活科の単元でも泥んこ遊びをしたんですよ！園児たちはこういう感じで泥んこ遊びをしているんですね。おたよりを見て園児の遊びを知ること、小学校での学習の展開や言葉かけ、対応のヒントにもなりますね。また、遊びを通しての発見やルールを学ぶということは小学校（特に支援学級）でも大切にしているところです。このことも小学校と園、共通することですね。



小学校の先生

毎日、泥んこになって帰ってきていたので、砂・水遊びをしているんだなとは思っていましたが、あんなにダイナミックに遊ばせてもらってありがとうございます。子どもと一緒に、園だよりや年長だよりを楽しみ読むことができました。写真や文章から子どもたちがこんなに思いっきり遊んでいる様子が分かり、嬉しいです。

ますます
深まる実践

今年度の9月も「大きなかぶ」の劇を1年生と楽しみました。「1年生になったら私たちが劇をやるんだね」と年長さんからわくわくしている声が。この活動は川上小学校1年生が校区内の園に訪問して実施されました。

小学校のみならず大和中学校との交流会も長年継続して開催されています。今年度も中学生が心を込めた手作りのおもちゃを準備して園のこどもを温かく招待しました。一緒に遊んで園児も大喜びです。



神崎市（教育委員会、ちよだ保育園、千代田中部小学校）、と川上こども園の先生方のご実践では、先生方がお互いの「育てたいこどもの姿」を共有し、その思いや願いを深く語りあっていらっしゃるが大変印象的です。そして、こどもの学びや生活の質を捉え、資質・能力がどのように育っているかを見出していらっしゃるご実践は、大変参考になるものだと思います。

